

2023年3月アンケート調査実施 金融教育に関する意識調査2023

野村アセットマネジメント 資産運用研究所

2023年7月

目次

No	項目	スライドタイトル	ページ
I	目次	目次	1
	要点	調査結果の要点	2
II	投資の実態・意識		3
		資産形成の実施有無	4
		保有商品	5
		投資を始める条件	6
		投資を始めるまでに活用した情報源	7
		金融リテラシー	8
III	金融教育の受講意向、理由		9
		金融教育に対する受講の意向	10
		金融教育を受講したい理由	11
IV	金融教育の受講経験、内容等	金融教育を受講したくない理由	12
			13
		金融教育の受講経験	14
		金融教育を受講したきっかけ	15
		金融教育を初めて受講した時期	16
		金融教育を受講すべき時期	17
		金融教育で学んだ内容	18
		金融教育で今後学びたい内容	19
		資産形成に関して学んだ内容	20
		資産形成に関して今後学びたい内容	21
金融教育についての感想	22		
金融教育受講後の変化	23		
V	金融教育の提供者、受講方法		24
		金融教育を提供している組織・人の認知	25
		金融教育を受講したい組織・人	26
VI	家庭での金融教育	金融教育の希望受講方法	27
			28
		家庭での金融教育の内容	29
		家庭での金融教育で今後教えたい内容	30
VII	調査概要	家庭で金融教育を行わない理由	31
		調査概要	32

調査結果の要点

※本調査における「金融教育」とは、「生活設計や家計管理、資産形成など金融について、授業やセミナー、イベントなどで学ぶ機会」と定義

資産形成について

- 資産形成の観点から投資を行っている人は27%
- 現在保有している有価証券は「国内株式（従業員持ち株会を除く）」の15%、「投資信託、ETF」の13%が上位

金融教育における受講の経験、きっかけ、内容等

- 金融教育に対する受講意向は全体で約4割であり、若年層ほど高く、また投資をしていない人よりも投資をしている人のほうが高い
- 金融教育を受けたことのある人は14%、受けたことのない人は86%
- 受講のきっかけは「将来の不安を感じた」が26%、「老後2,000万円問題」が18%、「NISA、iDeCoなど制度改革の話題」が18%
- 初めて金融教育を受講した時期は社会に出てからが多い一方、受講すべきと考える時期は大学までにとの回答が約6割を占める
- 学びたい内容は「資産形成について」が39%と高く、具体的には「投資商品の種類や仕組み」が45%、「投資に関する税制」が41%、「情報収集の方法」が38%

金融教育の提供者、受講方法

- 金融教育をどの組織・人が提供しているか知っている人は少なく、78%の人は「知らない」と回答
- 金融教育の受講意向者が受けたい組織・人は「銀行等」が29%で最も多いが、「どこで受けたらよいか分からない」人が4割を超える
- 希望する受講方法は「金融機関のセミナー」が21%、「学校教育」が17%、「動画サイト」が15%

家庭での金融教育の実態

- 子供・孫がいる家庭において、実際に行われた金融教育の内容は、「お金の大切さについて」が31%と最も高く、「自分のお金の管理方法について」が18%、「貯蓄の意義について」が13%と続く。一方で、「教えたことはない」が55%
- 家庭で子供・孫に教えたことがない理由は「教えるほどの知識がない」が40%、「子供がまだ小さい（教えるほどの適正年齢に達していない）」が33%、「何を教えればよいか分からない」が27%

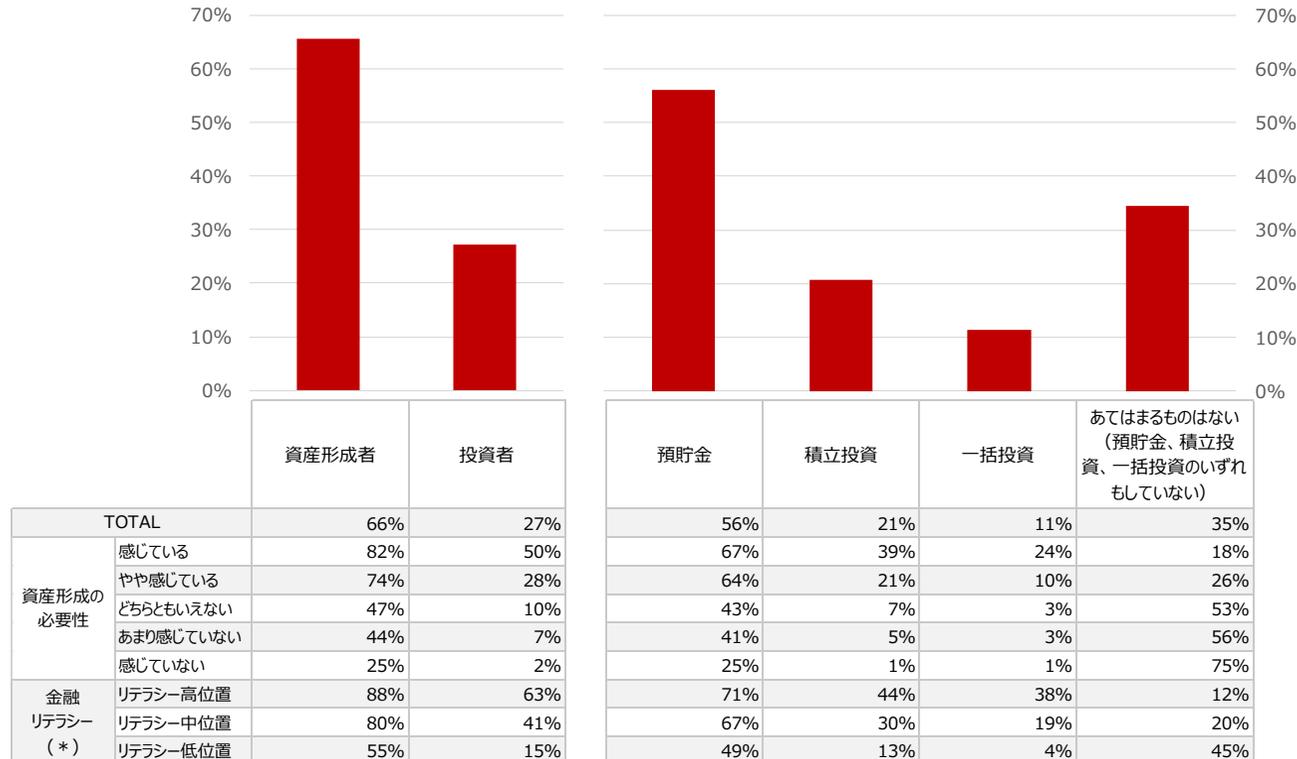
Ⅱ 投資の実態・意識

資産形成の実施有無

- 資産形成のために投資及び預貯金をしている「資産形成者」は66%、投資をしている「投資者」は27% (※)
 ※ 「資産形成者」は「預貯金」「積立投資」「一括投資」のうちどれか1つでも行っている人を、「投資者」は「積立投資」「一括投資」のうちどちらか1つでも行っている人を集計
- 資産形成の具体的な方法は、「預貯金」が56%、「積立投資」が21%、「一括投資」が11%
- 金融リテラシーが高いほど、投資者の割合が高い

投資、預貯金の実施状況

Q) あなたは現在、実際に資産形成のための投資や預貯金を行っていますか。行っているものをお選びください。(複数回答、全体 n=10,664)
 ※「積立投資」は毎月など定期的に決めた金額を投資すること、「一括投資」はそれ以外で不定期に都度投資することとしてお考え下さい。
 ※「預貯金」は資産形成のための預貯金とお考えいただき、日常的な出入れ・引落しのための貯蓄は除いてお考え下さい。



* 「金融リテラシー」は、金融リテラシーテスト (P.32 「調査概要」を参照) の全7問中、6~7問正解した方を「リテラシー高位置」、3~5問正解した方を「リテラシー中位置」、全問不正解及び1~2問正解した方を「リテラシー低位置」として集計 (本資料において以降も同様)

保有商品

- 現在保有している商品は「年金・生命保険」が26%と最も高く、「国内株式」が15%、「投資信託、ETF」が13%と続く
- すべての商品について、金融リテラシーが高い人の保有割合は中位及び低位の人よりも高い
- 現在保有している商品はない（「あてはまるものはない」）と回答した人は53%

保有している商品

Q) あなたは現在どのような商品に投資をしていますか、「持っている商品すべて」の中で、現在保有している商品についてお選びください。（複数回答、全体 n=10,664）



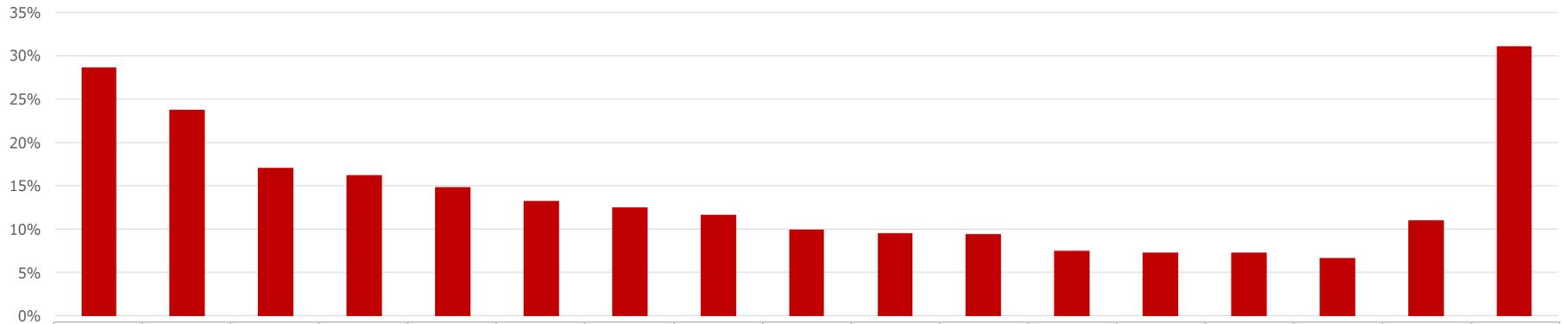
	年金・生命保険	国内株式 (従業員持ち株会を除く)	投資信託、ETF (J-REITを含む。ファンドラップは除く)	従業員持ち株会	外国株式 (従業員持ち株会を除く)	外貨預金	国内債券	実物不動産 (REIT、自宅を除く)	暗号資産 (仮想通貨)	ファンドラップ (投資一任運用)	FX (外国為替証拠金取引)	外国債券	その他	あてはまるものはない (投資はしていない)	
TOTAL	26%	15%	13%	6%	5%	4%	4%	2%	2%	2%	2%	2%	1%	53%	
年代別	20-29歳	15%	12%	6%	7%	3%	3%	1%	3%	1%	2%	1%	1%	62%	
	30-39歳	26%	15%	15%	7%	6%	4%	3%	4%	1%	3%	1%	1%	51%	
	40-49歳	29%	14%	13%	7%	4%	4%	3%	2%	2%	2%	2%	1%	51%	
	50-59歳	29%	16%	12%	7%	4%	5%	4%	3%	1%	2%	2%	1%	54%	
	60-69歳	30%	19%	15%	3%	3%	4%	6%	3%	1%	4%	1%	2%	1%	50%
金融リテラシー	リテラシー-高位置	41%	44%	44%	10%	12%	9%	9%	4%	7%	5%	6%	5%	2%	17%
	リテラシー-中位置	35%	25%	21%	9%	7%	6%	6%	3%	3%	3%	3%	3%	1%	36%
	リテラシー-低位置	20%	7%	5%	4%	2%	2%	2%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	67%

投資を始める条件

- 投資をしていない人が投資を始める条件は、「絶対に損をしなければ」が29%と最も高く、「給料・所得が増えたら」が24%と続く
- 「どんなことがあっても投資はしない」が31%。年代別では60代が多いものの、他の年代でも一定割合存在し、金融リテラシーが低いほど、その割合が高い

投資を始める条件

Q) 現在投資をしていない人に伺います。あなたはどのような条件が揃ったら投資を始めたいと思いますか。(複数回答、非投資者、n=7,779)



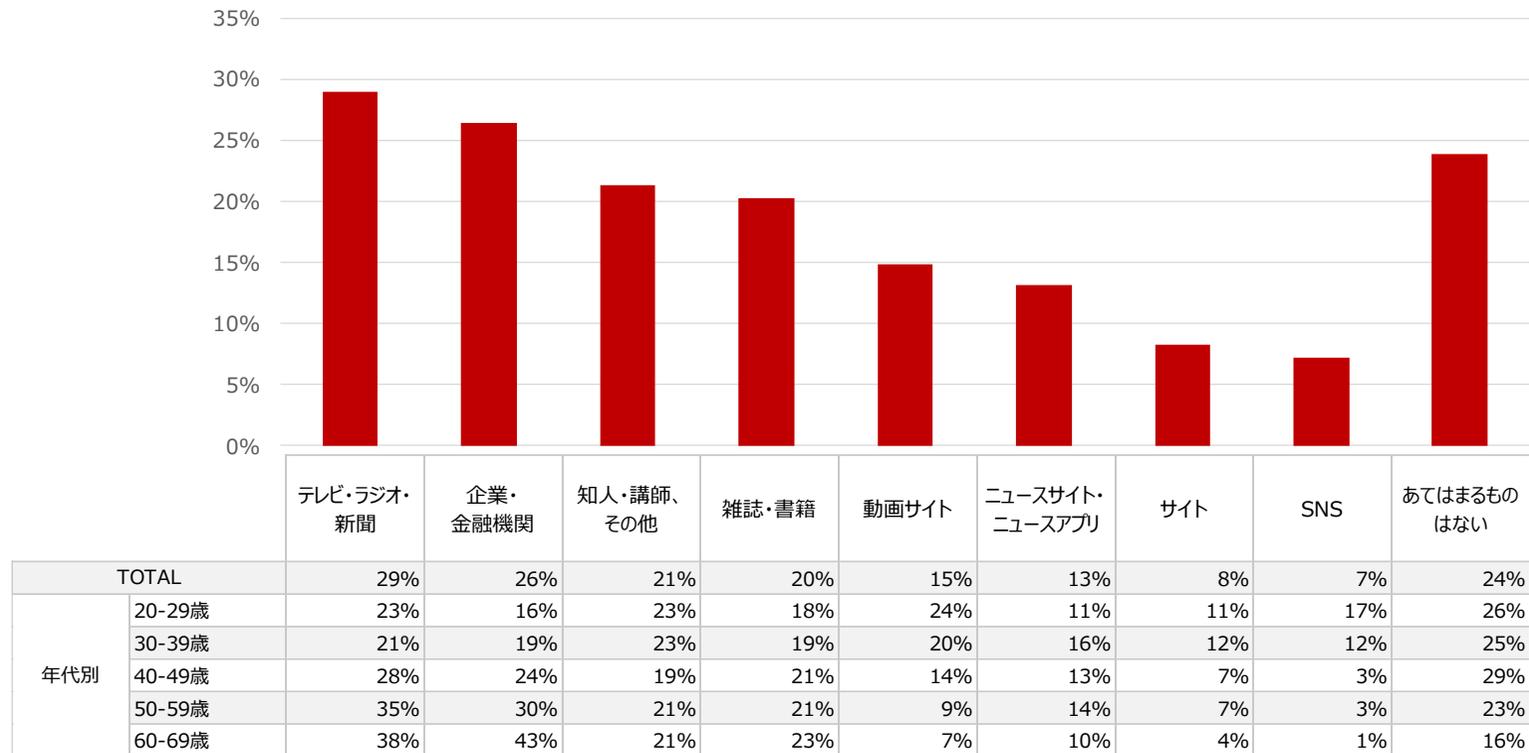
条件	TOTAL	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	リテラシー高位置	リテラシー中位置	リテラシー低位置
絶対に損をしなければ	29%	28%	31%	30%	29%	26%	29%	36%	26%
給料・所得が増えたら	24%	30%	29%	28%	24%	10%	33%	33%	20%
少額で投資可能だったら	17%	16%	21%	20%	16%	13%	22%	27%	14%
まとまったお金が出来たら	16%	18%	16%	17%	17%	13%	25%	23%	13%
自分に合った金融商品が理解できたら	15%	15%	18%	16%	14%	12%	21%	23%	11%
金融・経済の知識が深まったら	13%	20%	16%	15%	11%	7%	15%	23%	10%
金融商品の知識が深まったら	13%	15%	17%	13%	12%	8%	17%	22%	9%
リスクを低減・分散できる投資の仕方が理解できたら	12%	13%	15%	13%	11%	8%	17%	19%	9%
リスクやリターンが具体的な金額でイメージできたら	10%	11%	12%	13%	9%	6%	15%	18%	7%
NISAやiDeCoなど、投資を支援してくれる制度が理解できたら	10%	11%	15%	11%	9%	4%	17%	15%	7%
アドバイザーがいたら	9%	9%	13%	12%	8%	7%	9%	12%	9%
他のことに使っている支出が減ったら	8%	8%	9%	9%	8%	4%	11%	12%	6%
ポイント運用・ポイント投資(ポイントを使って投資できる仕組み)ができれば	7%	9%	11%	9%	6%	3%	6%	11%	6%
口座開設など手続きが容易であれば	7%	9%	10%	8%	7%	4%	12%	13%	5%
ポイントが付いたら	7%	9%	10%	8%	7%	3%	8%	9%	6%
その他	11%	16%	13%	13%	9%	5%	10%	17%	9%
どんなことがあっても投資はしない	31%	32%	28%	26%	30%	40%	8%	10%	40%

投資を始めるまでに活用した情報源

- 投資をしている人が投資を始める前に活用した情報源は、「テレビ・ラジオ・新聞」が29%と最も高く、「企業・金融機関」が26%、「知人・講師、その他」が21%と続く
- 年代別で見ると、20代では「動画サイト」が、60代では「企業・金融機関」が高い

投資を始めるまでに活用した情報源

Q) 投資を始めるまでに活用した情報源についてお聞かせください。(複数回答、投資者 n=2,885)



※「テレビ・ラジオ・新聞」はテレビ、ラジオ、大手新聞等、「企業・金融機関」は金融機関・企業のホームページ、担当者、金融機関・企業からのメール等、「知人・講師、その他」は家族、ファイナンシャルプランナー、知人・友人等、「雑誌・書籍」はビジネス・マネー雑誌、週刊誌、書籍等、「動画サイト」はYouTube等、「サイト」はまとめサイト、ランキングサイト、個人のブログ等、「SNS」はTwitter、Instagram等

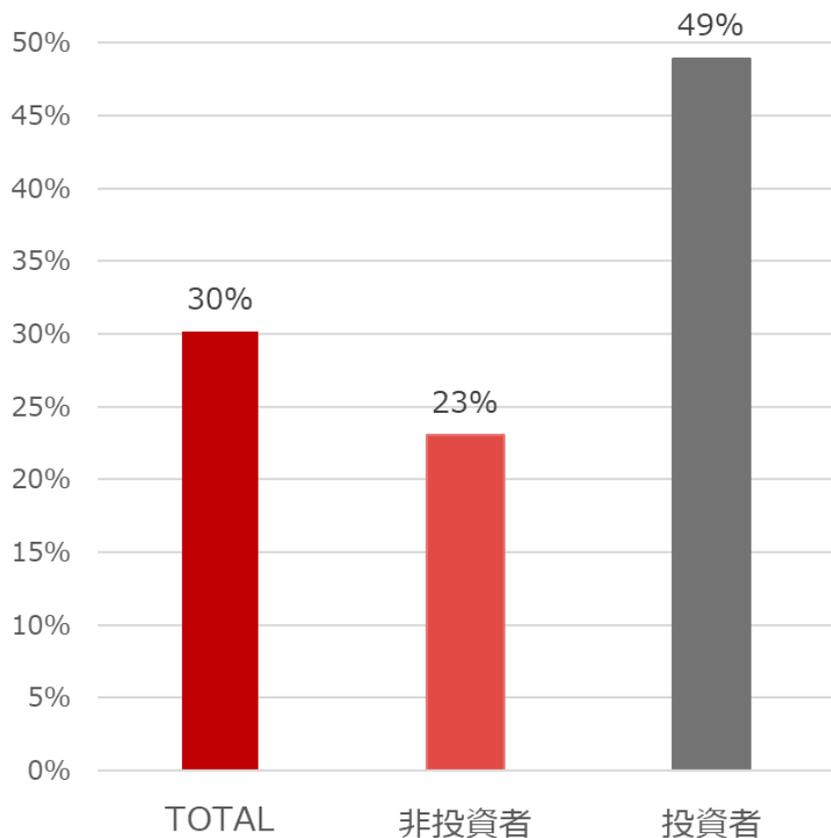
当資料は意識調査の内容を開示することを目的として野村アセットマネジメントが作成したものです。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しております。当資料に示された内容等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆しないし保証するものではありません。また特定の銘柄の推奨や売買等を示唆するものではありません。

金融リテラシー

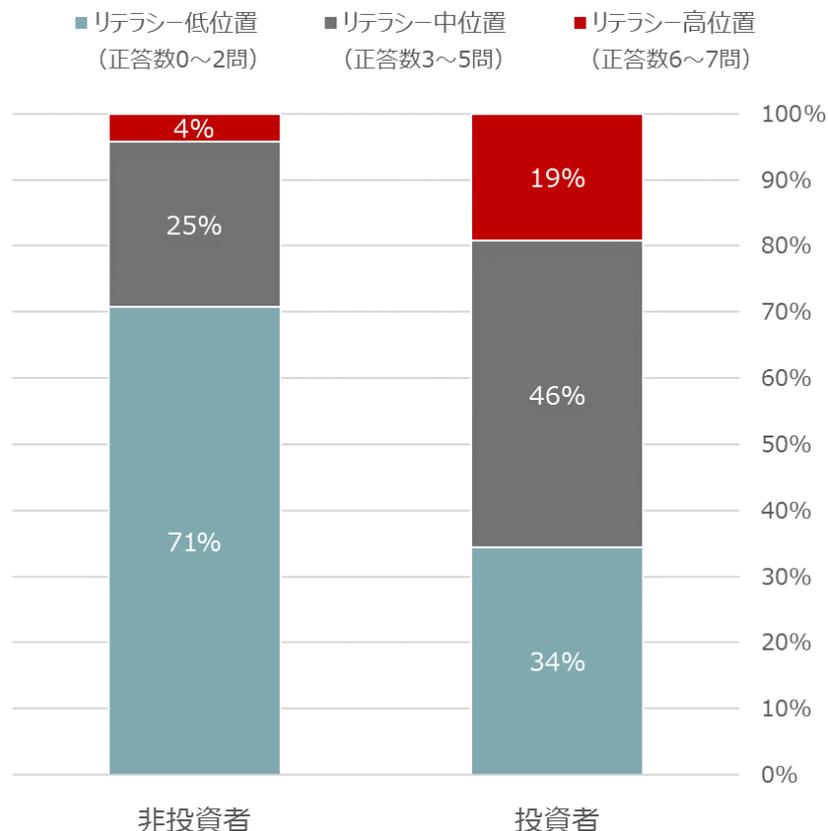
- 投資をしている人（投資者）のほうが、投資をしていない人（非投資者）と比べて金融リテラシーテストの正答率が高い
- 投資をしていない人（非投資者）は「リテラシー低位置」の割合が高い

金融リテラシー

金融リテラシーテストの正答率



金融リテラシーテストの正答数



※ 金融リテラシーテストの詳細についてはP.32「調査概要」を参照

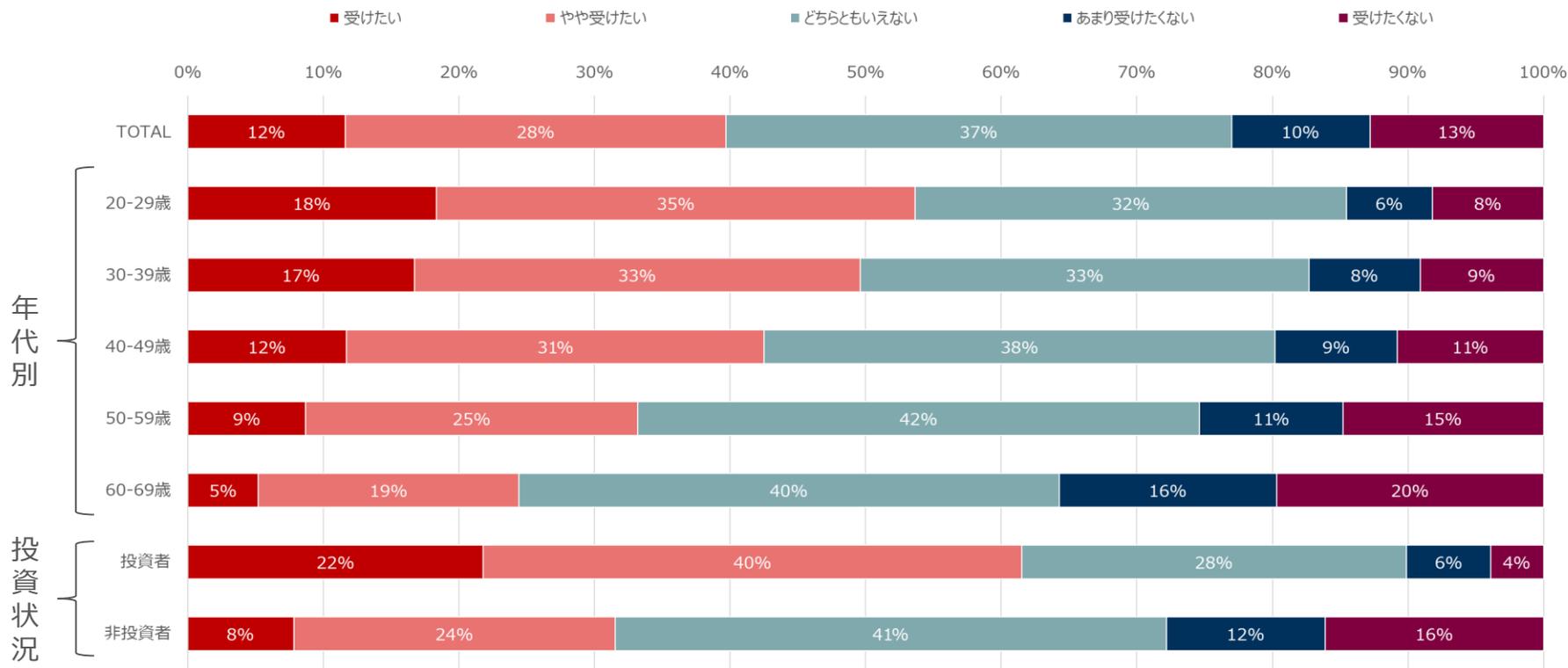
Ⅲ 金融教育の受講意向、理由

金融教育に対する受講の意向

- 金融教育に対する受講の意向は、若い世代ほど高く、また非投資者よりも投資者の方が高い

受講意向

Q) あなたご自身は、金融教育を受けたいと思いますか。既に受けたことがある人も、今後改めて金融教育を受けたいかお答えください。(単一回答、全体 n=10,664)

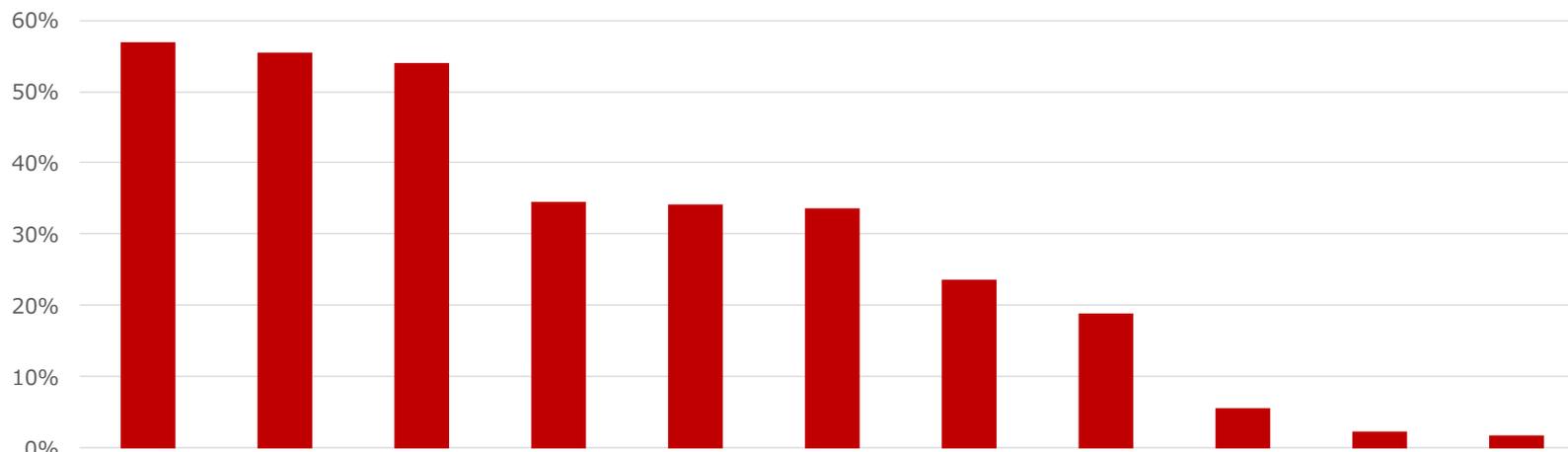


金融教育を受講したい理由

- 金融教育を受けたいと思う人にその理由を聞いたところ、「資産を増やしたいから」が57%と最も高く、「老後資金に不安があるから」が55%、「金融の知識を付けたいから」が54%と続く

受講意向の理由

Q) あなたが金融教育を受けたいと思うのはなぜですか。(複数回答、金融教育意向者、n=4,232)



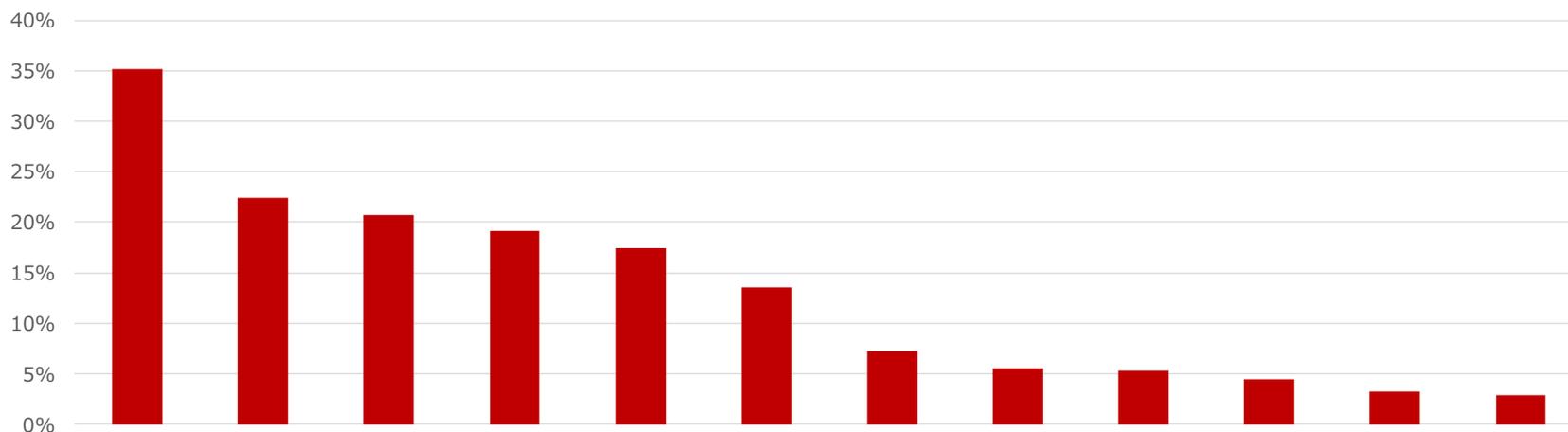
	資産を増やしたいから	老後資金に不安があるから	金融の知識を付けたいから	将来の支出(ライフイベント、臨時支出)に備えたいから	もしもの時の支出への備えをしたいから	お金の付き合い方を知りたいから	資産を減らしたくないから	これからのライフイベント(結婚や子育てなど)における必要額を知りたいから	家族・友人などが投資をしているから	家族・友人などが金融教育を受けているから	有名人が薦めているから	
TOTAL	57%	55%	54%	35%	34%	34%	24%	19%	6%	2%	2%	
年代別	20-29歳	56%	43%	53%	40%	35%	35%	20%	26%	8%	4%	4%
	30-39歳	66%	57%	60%	43%	41%	40%	23%	28%	8%	3%	1%
	40-49歳	60%	59%	55%	36%	37%	35%	26%	18%	4%	2%	1%
	50-59歳	53%	63%	50%	28%	28%	31%	24%	10%	3%	2%	1%
	60-69歳	43%	54%	49%	18%	24%	23%	27%	6%	3%	0%	0%
投資状況	投資者	63%	53%	57%	36%	32%	35%	28%	21%	6%	3%	2%
	非投資者	53%	57%	52%	34%	36%	33%	20%	17%	6%	2%	1%

金融教育を受講したくない理由

- 金融教育を受けたいと思わない人にその理由を聞いたところ、「投資できるほどのお金がないから」が35%と最も高く、「営業を受けそうでいやだから」が22%、「時間がないから」が21%と続く

非受講意向の理由

Q) あなたが金融教育を受けたいと思わないのはなぜですか。(複数回答、金融教育非意向者、n=6,432)



		投資できるほどのお金がないから	営業を受けそうでいやだから	時間がないから	投資には損をするイメージがあるから	金融教育の内容が難しそうだから	金融教育がどのようなものかわからないから	金融やお金に興味がないから	資産形成の必要性を感じないから	教わらなくても自分で学べるから	お金の話をすることや、考えることは卑しいと思うから	既にある程度知識があり、得るものが少なそうだから	その他
TOTAL		35%	22%	21%	19%	17%	14%	7%	6%	5%	4%	3%	3%
年代別	20-29歳	27%	19%	25%	17%	17%	13%	9%	6%	8%	8%	4%	3%
	30-39歳	34%	24%	25%	19%	22%	15%	7%	5%	6%	5%	3%	3%
	40-49歳	34%	23%	25%	18%	21%	14%	6%	4%	4%	5%	3%	2%
	50-59歳	38%	23%	21%	18%	16%	14%	7%	5%	5%	4%	3%	3%
	60-69歳	38%	22%	12%	22%	15%	12%	8%	8%	5%	3%	4%	4%
投資状況	投資者	19%	28%	23%	8%	17%	12%	3%	3%	17%	3%	11%	3%
	非投資者	39%	21%	20%	21%	18%	14%	8%	6%	3%	5%	2%	3%

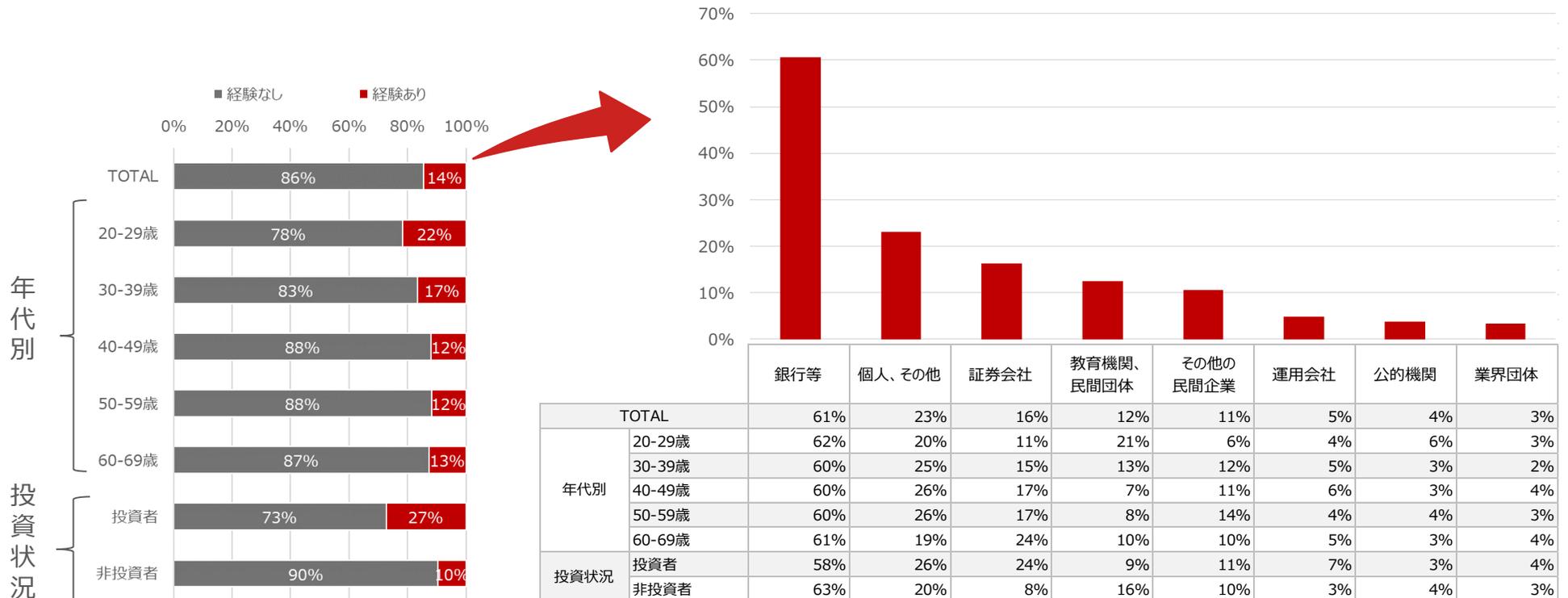
IV 金融教育の受講経験、内容等

金融教育の受講経験

- 金融教育を受けたことのある人は全体の14%、受けたことのない人は86%
- 年代別で見ると、金融教育を受けたことのある人は20代が他の年代と比べやや高い。また、投資者で金融教育を受けたことのある人は27%と、非投資者のそれと比べ高い
- 金融教育を受けたことのある人は、「銀行等」から金融教育を受けた割合が約6割と高い

受講経験

Q)あなたは、これまでに学校や勤務先、金融機関などが行う「金融教育」を受けたことがありますか。受けたことがある人は、どの組織・人から教わったかをお知らせください。(複数回答、全体 n=10,664)
 「金融教育」とは、生活設計や家計管理、資産形成など金融について、授業やセミナー、イベントなどで学ぶ機会を指します。

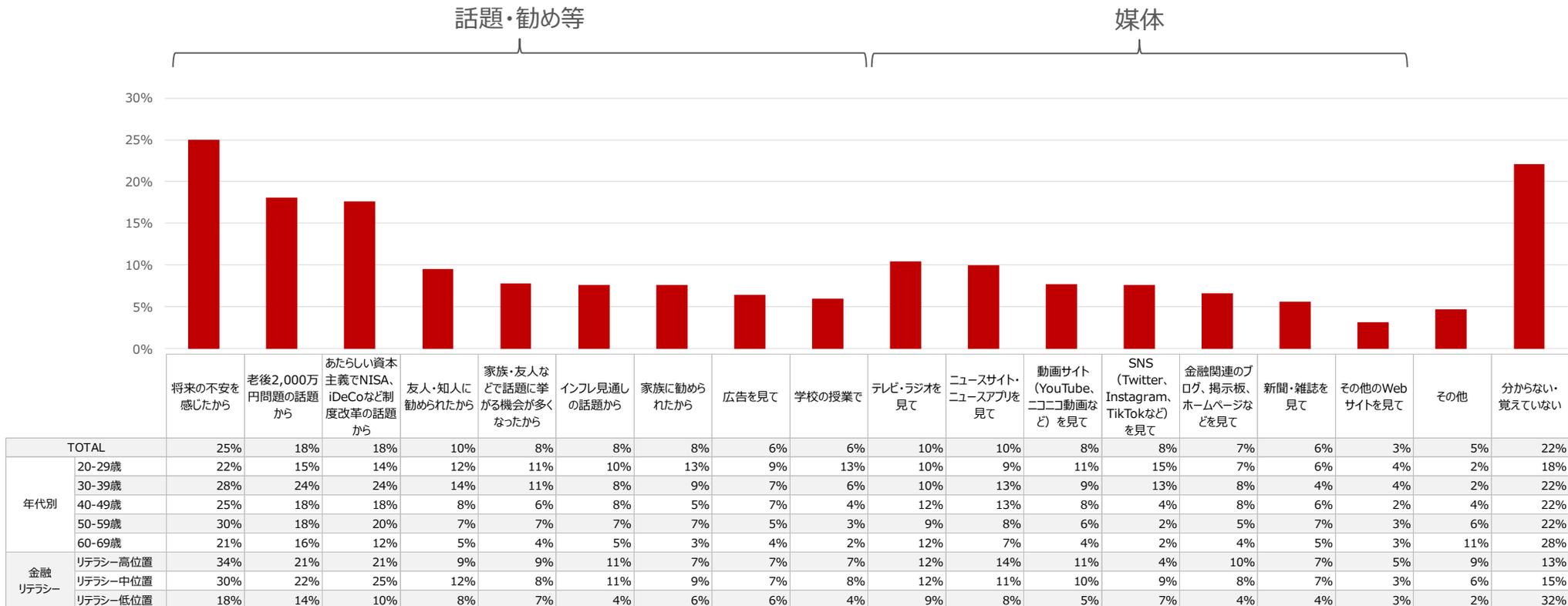


金融教育を受講したきっかけ

- 金融教育を受けたことのある人に受講のきっかけを聞くと、「将来の不安を感じたから」が25%と最も高く、「老後2,000万円問題の話題から」「あたらしい資本主義でNISA、iDeCoなど制度改革の話題から」が18%と続く
- 媒体の観点で見ると、20代ではSNSがきっかけで金融教育を受けようと思った割合が相対的に高い

受講のきっかけ

Q) あなたが金融教育を受けようと思ったきっかけは何ですか。(複数回答、金融教育経験者、n=1,535)

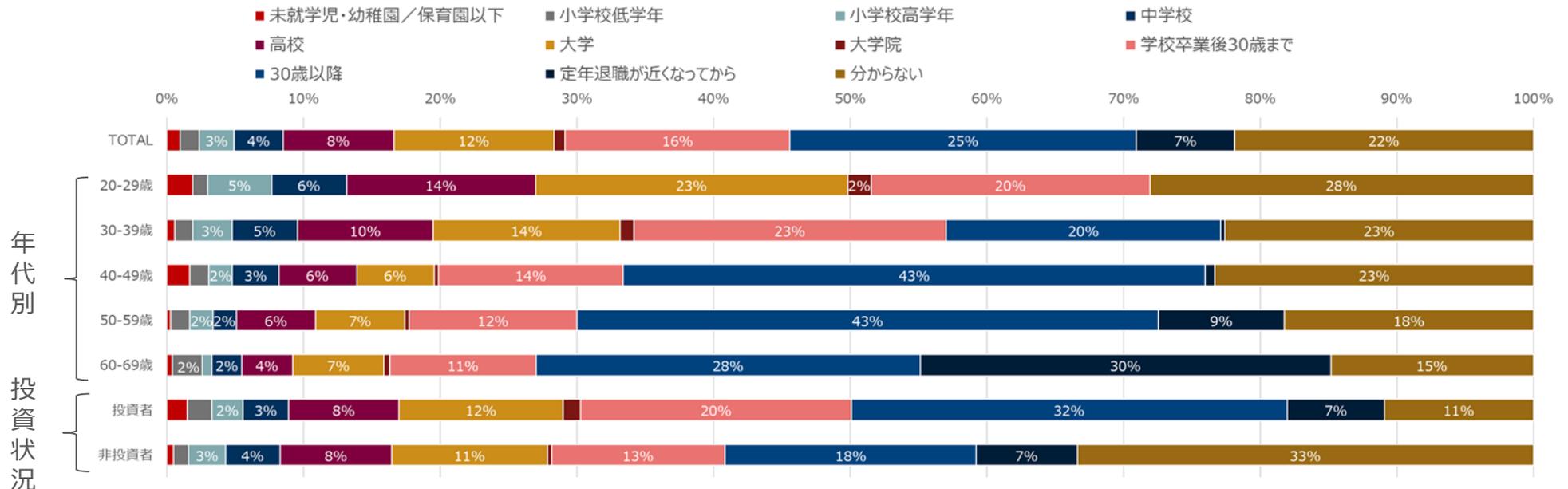


金融教育を初めて受講した時期

- 金融教育を受けたことのある人において、金融教育を初めて受けた時期は「30歳以降」が25%と最も高く、約半数は社会に出てから金融教育を初めて受講している

初めて受講した時期

Q) あなたが、金融教育を初めて受けたのはいつ頃ですか。(単一回答、金融教育経験者、n=1,535)

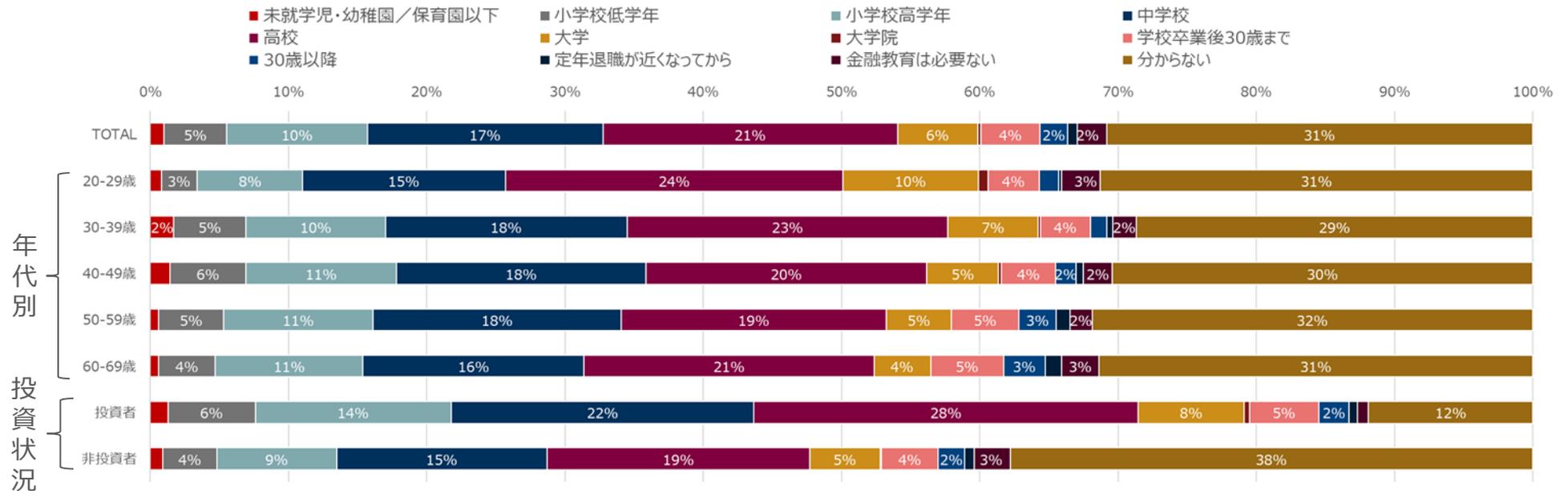


金融教育を受講すべき時期

- 金融教育を受けるべきと考える時期は、「高校」が21%と最も高く、「中学校」が17%、「小学校高学年」が10%と続く
- 全体の約6割が「大学」までに受け始めるべきと回答

受講すべきと考える時期

Q) あなたは、ご自身の経験を踏まえて、金融教育はいつ頃に受け始めるべきと思いますか。(単一回答、全体 n=10,664)

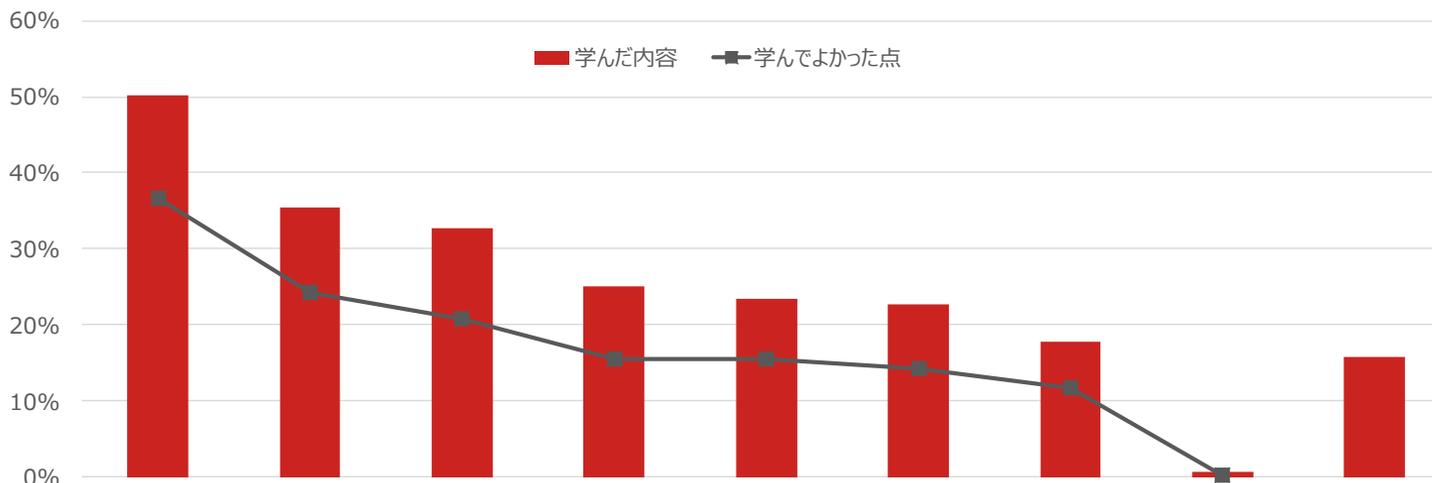


金融教育で学んだ内容

- 金融教育を受けたことのある人に対して、金融教育で学んだ内容を聞くと、「資産形成について」が50%と最も高く、「ライフプランニングについて」が36%、「保険について」が33%と続く

これまでに学んだ内容（金融教育）

Q あなたは、これまで金融教育でどのようなことを学び、どのようなことを「学んでよかった」と思いましたか。（複数回答、単一回答、金融教育経験者、n=1,535）



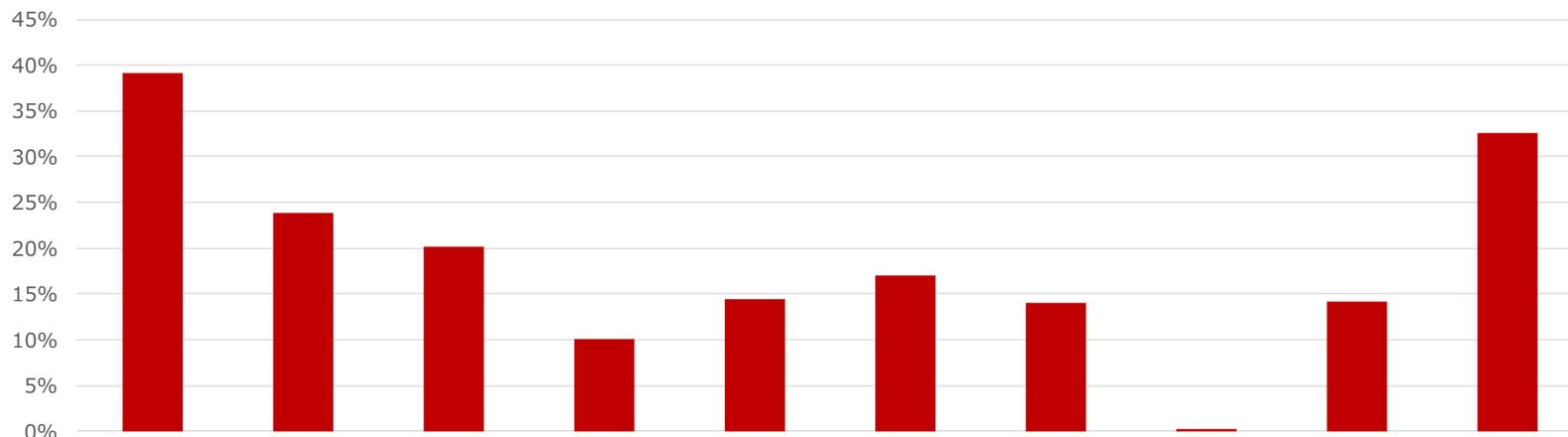
	資産形成（貯める・増やすこと）について	ライフプランニング（人生設計）について	保険（社会保険、民間保険）について	ローン、クレジット（お金を借りること）について	お金を使う際の考え方などについて	家計管理について	金融トラブルについて	その他	覚えていない	
学んでよかった点	37%	24%	21%	16%	16%	14%	12%	0%	—	
学んだ内容	50%	36%	33%	25%	24%	23%	18%	1%	16%	
年代別	20-29歳	44%	29%	27%	30%	30%	29%	24%	0%	15%
	30-39歳	48%	32%	34%	28%	30%	28%	23%	1%	17%
	40-49歳	53%	40%	37%	26%	24%	23%	14%	1%	16%
	50-59歳	51%	39%	35%	20%	16%	18%	15%	1%	15%
	60-69歳	57%	41%	32%	19%	15%	12%	10%	0%	17%
投資状況	投資者	66%	43%	37%	27%	26%	26%	20%	1%	7%
	非投資者	34%	27%	28%	24%	21%	20%	16%	0%	25%

金融教育で今後学びたい内容

- 金融教育で今後学びたい内容は、「資産形成について」が39%と最も高く、「ライフプランニングについて」が24%、「保険について」が20%と続く

学びたい内容（金融教育）

Q) あなたは、今後金融教育でどのようなことを学んでみたいと思いますか。（複数回答、全体 n=10,664）



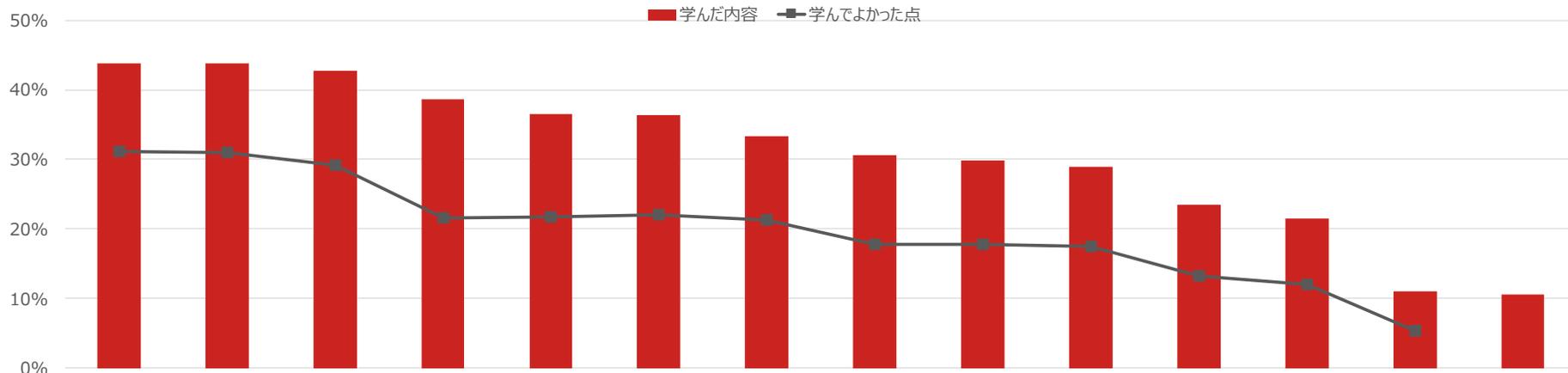
		資産形成（貯める・増やすこと）について	ライフプランニング（人生設計）について	保険（社会保険、民間保険）について	ローン、クレジット（お金を借りること）について	お金を使う際の考え方などについて	家計管理について	金融トラブルについて	その他	何を学ばよいか分からない	特になし
TOTAL		39%	24%	20%	10%	14%	17%	14%	0%	14%	33%
年代別	20-29歳	46%	27%	27%	18%	23%	24%	19%	0%	13%	27%
	30-39歳	49%	31%	28%	16%	21%	25%	18%	0%	13%	25%
	40-49歳	44%	27%	23%	11%	15%	18%	15%	0%	14%	28%
	50-59歳	35%	21%	16%	5%	9%	12%	11%	0%	16%	35%
	60-69歳	25%	15%	11%	4%	8%	9%	9%	0%	15%	46%
投資状況	投資者	58%	35%	26%	14%	21%	22%	19%	0%	7%	19%
	非投資者	32%	20%	18%	8%	12%	15%	12%	0%	17%	38%

資産形成に関して学んだ内容

- 「資産形成（貯める・増やすこと）について」学んだことのある人にその内容を聞くと、「資産形成の必要性・重要性について」と「分散投資の効果について」が44%と高く、「投資商品の種類や仕組みについて」が43%と続く

これまでに学んだ内容（資産形成）

Q) あなたは、資産形成に関してどのようなことを学び、どのようなことを「学んでよかった」と思いましたか。（複数回答、単一回答、資産形成学習経験者、n=769）



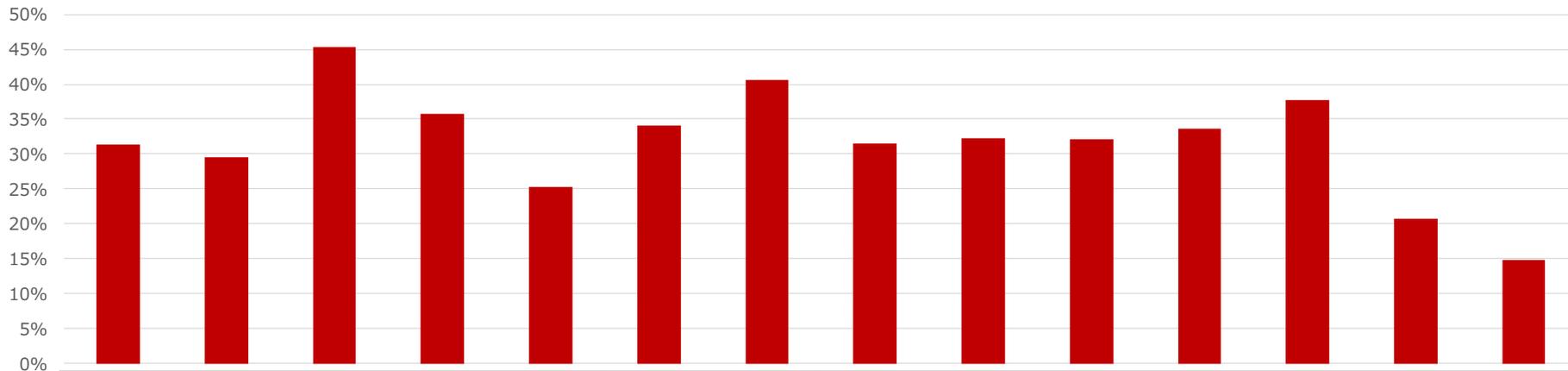
		資産形成の必要性・重要性について	分散投資の効果について	投資商品の種類や仕組みについて	手数料などのコストについて	投資の目標・目的について	投資期間の考え方	投資に関する税制	値動きなどのリスクについて	ポートフォリオ（投資先の配分）の組み方や運用の方法について	積立投資と一括投資の考え方について	投資環境や相場について	情報収集の方法	投資後の相談窓口（アフターサービス）	分からない・特になし
学んでよかった点		31%	31%	29%	22%	22%	22%	21%	18%	18%	17%	13%	12%	5%	—
学んだ内容		44%	44%	43%	39%	37%	36%	33%	31%	30%	29%	24%	22%	11%	11%
年代別	20-29歳	38%	37%	33%	31%	38%	38%	28%	28%	21%	28%	24%	21%	9%	9%
	30-39歳	48%	42%	44%	42%	46%	44%	39%	32%	34%	30%	26%	32%	13%	9%
	40-49歳	46%	44%	41%	40%	34%	39%	34%	32%	34%	28%	22%	18%	13%	12%
	50-59歳	44%	52%	48%	40%	31%	32%	28%	35%	29%	32%	23%	20%	11%	11%
	60-69歳	43%	45%	49%	41%	34%	29%	40%	25%	32%	28%	23%	16%	10%	12%
投資状況	投資者	49%	52%	48%	45%	41%	42%	40%	35%	38%	36%	28%	25%	13%	5%
	非投資者	34%	26%	32%	25%	28%	24%	19%	22%	12%	14%	15%	14%	8%	21%

資産形成に関して今後学びたい内容

- 「資産形成（貯める・増やすこと）について」今後学びたい内容を、学んだことのある人・学んだことは無いが今後学びたい人に聞いたところ、「投資商品の種類や仕組みについて」が45%と最も高く、「投資に関する税制」が41%、「情報収集の方法」が38%と続く

学びたい内容（資産形成）

Q) あなたは、今後資産形成に関してどのようなことを学んでみたいと思いますか。（複数回答、資産形成学習経験者及び、資産形成学習未経験者かつ学習意向者 n=4,483）



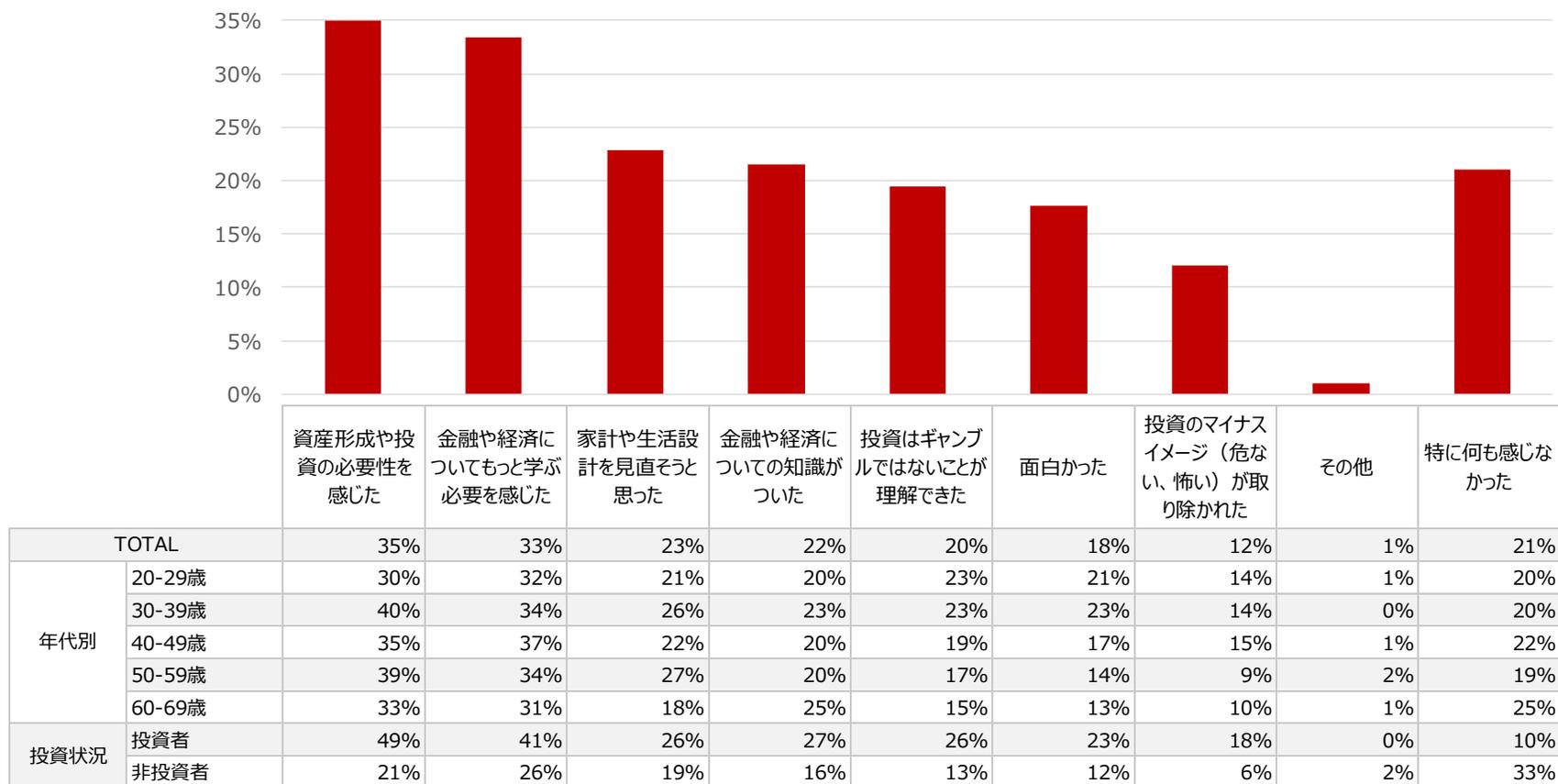
	資産形成の必要性・重要性について	分散投資の効果について	投資商品の種類や仕組みについて	手数料などのコストについて	投資の目標・目的について	投資期間の考え方	投資に関する税制	値動きなどのリスクについて	ポートフォリオ（投資先の配分の組み方や運用の方法について	積立投資と一括投資の考え方について	投資環境や相場について	情報収集の方法	投資後の相談窓口（アフターサービス）	分からない・特になし	
TOTAL	31%	30%	45%	36%	25%	34%	41%	32%	32%	32%	34%	38%	21%	15%	
年代別	20-29歳	36%	31%	45%	38%	31%	37%	41%	35%	34%	37%	37%	38%	24%	14%
	30-39歳	37%	35%	49%	40%	32%	40%	49%	36%	38%	39%	39%	45%	24%	12%
	40-49歳	31%	28%	45%	34%	26%	34%	41%	30%	31%	30%	35%	37%	20%	16%
	50-59歳	28%	27%	45%	34%	19%	31%	36%	30%	30%	30%	29%	34%	19%	16%
	60-69歳	21%	27%	41%	31%	15%	27%	33%	25%	25%	22%	26%	34%	17%	17%
投資状況	投資者	31%	31%	44%	33%	27%	33%	43%	32%	41%	31%	37%	39%	18%	9%
	非投資者	32%	28%	46%	38%	24%	35%	39%	31%	26%	33%	31%	37%	23%	19%

金融教育についての感想

- 金融教育を受けたことのある人に対して、その感想を聞いたところ、「資産形成や投資の必要性を感じた」が35%と最も高く、「金融や経済についてもっと学ぶ必要を感じた」が33%と高い

受講した感想

Q)あなたは金融教育を受けてどのような印象・感想を持ちましたか。(複数回答、金融教育経験者、n=1,535)

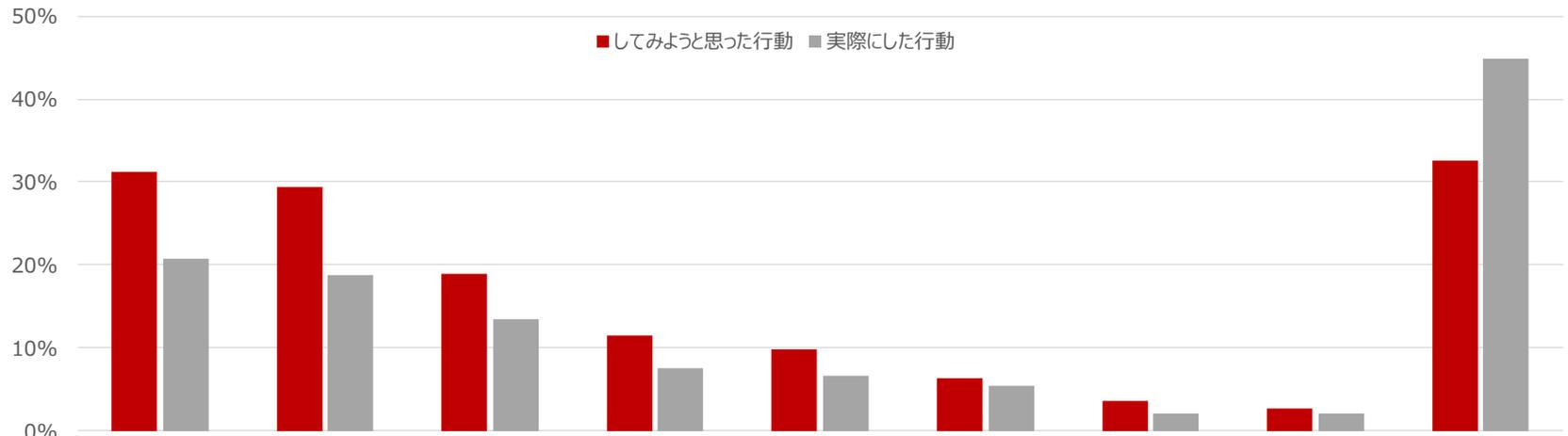


金融教育受講後の変化

- 金融教育を受けたことのある人に対して、受講後の心境について聞いたところ、「投資を始めたくなくなった」が31%と最も高く、「金融商品について知りたくなくなった」が29%、「投資額を増やしたくなった」が19%と続く
- 受講後も「特に何もしようと思わなかった」人は33%、実際に「何もしていない」人は45%にのぼる

してみたいと思った行動&実際にした行動

Q) あなたは金融教育を受けて、実際にどのような行動をしましたか。(複数回答、金融教育経験者、n=1,535)



		投資を始めたくなくなった (始めた)	金融商品について知りたくなくなった (調べた)	投資額を増やしたくなった (増やした)	金融機関に相談に行きたくなくなった (相談に行った)	投資配分を見直したくなった	投資額は現状維持しようと思った (維持している)	投資はしたくない、または、やめようと思った (やめた)	投資額を減らしたくなった (減らした)	特に何もしようと思わなかった (何もしていない)
してみようと思った行動		31%	29%	19%	12%	10%	6%	4%	3%	33%
実際にした行動		21%	19%	13%	8%	7%	5%	2%	2%	45%
年代別	20-29歳	18%	18%	13%	10%	5%	3%	3%	6%	44%
	30-39歳	24%	20%	15%	9%	7%	4%	2%	2%	42%
	40-49歳	23%	23%	15%	8%	8%	6%	2%	0%	45%
	50-59歳	20%	20%	12%	6%	8%	6%	1%	1%	45%
	60-69歳	19%	13%	11%	4%	6%	10%	2%	1%	49%

V 金融教育の提供者、受講方法

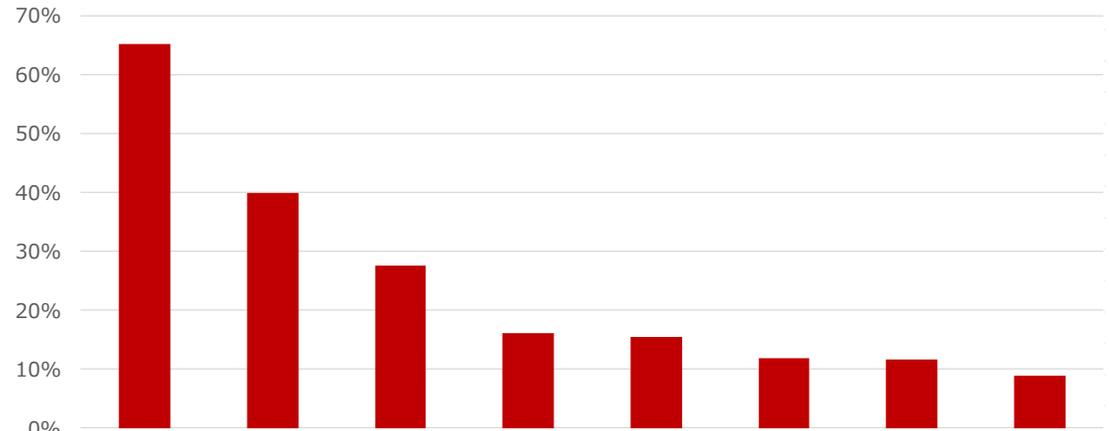
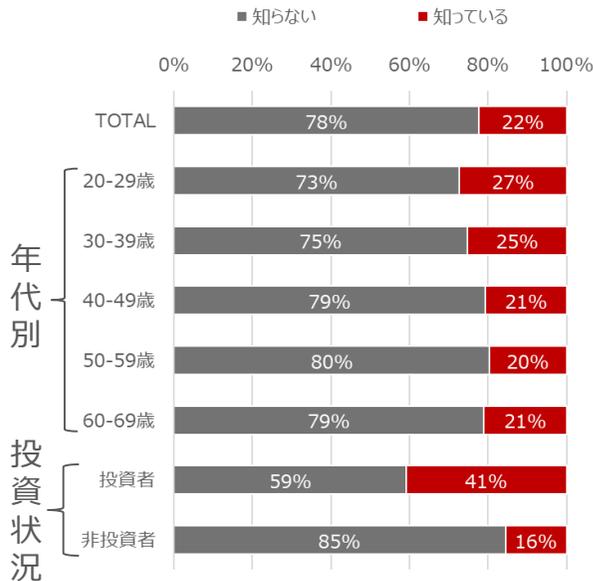
金融教育を提供している組織・人の認知

- 全体の78%の人は、どの組織・人が金融教育を提供しているか知らない
- どの組織・人が金融教育を提供しているか知っている人においては、「銀行等」の認知が最も高く、「証券会社」、「個人、その他」と続く

提供組織・人の認知

Q) あなたは、どのような組織・人が金融教育を提供しているかご存じですか。(複数回答、単一回答、全体 n=10,664)

金融教育の提供者



		銀行等	証券会社	個人、その他	その他の民間企業	公的機関	教育機関、民間団体	運用会社	業界団体
年代別	TOTAL	65%	40%	28%	16%	16%	12%	12%	9%
	20-29歳	69%	32%	21%	11%	18%	16%	8%	8%
	30-39歳	64%	35%	27%	17%	16%	12%	10%	5%
	40-49歳	61%	43%	32%	17%	13%	11%	13%	9%
	50-59歳	65%	42%	32%	18%	17%	11%	13%	11%
	60-69歳	66%	47%	25%	18%	14%	11%	15%	11%
投資状況	投資者	64%	46%	29%	16%	14%	11%	14%	9%
	非投資者	66%	34%	26%	16%	17%	13%	9%	9%

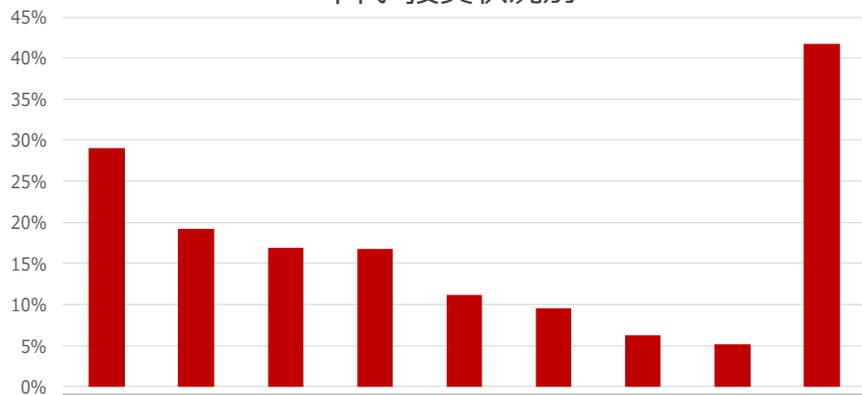
金融教育を受講したい組織・人

- 金融教育を受けたい人に対して、どのような組織・人から受けたいか聞いたところ、「銀行等」が29%と最も高く、「個人、その他」が19%、「証券会社」、「公的機関」が17%と続く
- 「金融教育を受けたいが、どこで受けたらよいか分からない」人が4割を超える
- 年代別で見ると、20代では「銀行等」が、60代では「証券会社」が相対的に高い。また、投資歴で見ると「10年以上」では「証券会社」が相対的に高い

金融教育を受けたい組織・人

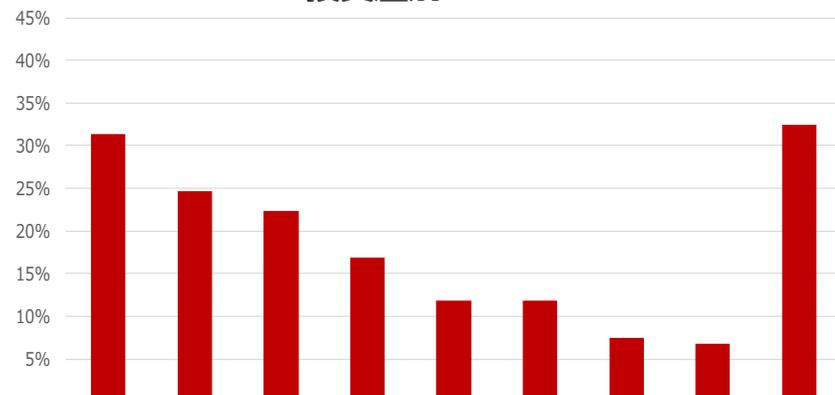
Q) どのような組織・人から受けたいと思いますか。(複数回答、左図：金融教育意向者、n=4,232、右図：金融教育意向者かつ投資者n=1,775)

年代・投資状況別



	銀行等	個人、その他	証券会社	公的機関	教育機関、民間団体	業界団体	その他の民間企業	運用会社	金融教育を受けたいが、どこで受けたらよいか分からない
TOTAL	29%	19%	17%	17%	11%	10%	6%	5%	42%
年代別	20-29歳	36%	16%	15%	18%	12%	8%	5%	41%
	30-39歳	29%	20%	19%	17%	11%	10%	8%	44%
	40-49歳	27%	21%	16%	16%	12%	9%	6%	43%
	50-59歳	24%	21%	15%	15%	10%	10%	6%	43%
	60-69歳	30%	19%	22%	19%	10%	11%	8%	35%
投資状況	投資者	31%	22%	25%	17%	12%	12%	7%	33%
	非投資者	27%	17%	11%	17%	11%	8%	6%	49%

投資歴別



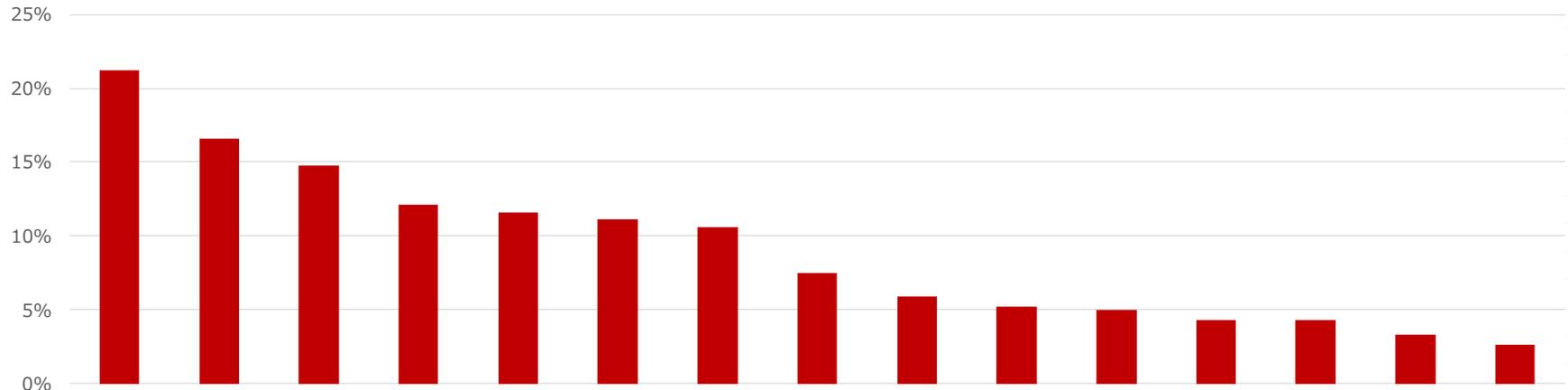
	銀行等	証券会社	個人、その他	公的機関	教育機関、民間団体	業界団体	運用会社	その他の民間企業	金融教育を受けたいが、どこで受けたらよいか分からない
TOTAL	31%	25%	22%	17%	12%	12%	8%	7%	33%
年代別	TOTAL	31%	25%	22%	17%	12%	12%	8%	33%
	1年未満	34%	20%	22%	18%	16%	8%	4%	32%
	1年~2年未満	34%	23%	16%	15%	9%	9%	7%	36%
	2年~5年未満	32%	24%	22%	17%	11%	13%	7%	33%
	5年~10年未満	32%	27%	25%	17%	12%	11%	8%	30%
	10年以上	30%	31%	25%	20%	13%	17%	11%	28%
	分からない・覚えていない	23%	16%	24%	12%	12%	7%	4%	45%

金融教育の希望受講方法

- 希望する金融教育の受講方法としては、「金融機関のセミナー」が21%と最も高く、「学校教育」が17%、「動画サイト」が15%と続く
- 20代、30代では「動画サイト」「資格・勉強系アプリ」「SNS」が相対的に高い

希望受講方法

Q) あなたが金融教育を受けるとしたら、どのような方法で学びたいと思いますか。(複数回答、全体 n=10,664)



		金融機関のセミナー	学校教育	動画サイト (YouTube、ニコニコ動画など)	書籍、参考書	専門家に個別に疑問点を中心に教えてほしい	職場で受けるセミナー	ホームページ・Webサイトの記事・ブログなど	資格・勉強系アプリ	ニュースアプリ	銀行系アプリや証券系アプリ	SNS (Twitter、Instagram、TikTok など)	雑誌	家計簿・ファイナンス管理アプリ	有料セミナー (スクール)	Pay系アプリやポイント系アプリ
TOTAL		21%	17%	15%	12%	12%	11%	11%	8%	6%	5%	5%	4%	4%	3%	3%
年代別	20-29歳	21%	20%	23%	16%	11%	15%	12%	13%	9%	7%	12%	4%	7%	5%	5%
	30-39歳	23%	20%	20%	15%	14%	15%	14%	11%	9%	7%	9%	6%	6%	4%	5%
	40-49歳	21%	17%	15%	12%	12%	11%	11%	7%	6%	5%	4%	5%	4%	3%	3%
	50-59歳	20%	14%	12%	10%	12%	9%	9%	6%	4%	4%	2%	4%	3%	3%	1%
	60-69歳	21%	14%	8%	10%	10%	6%	9%	4%	4%	4%	1%	3%	3%	3%	0%
金融教育経験	経験者	31%	19%	19%	17%	17%	19%	15%	12%	10%	9%	9%	8%	7%	6%	6%
	非経験者	20%	16%	14%	11%	11%	10%	10%	7%	5%	5%	4%	4%	4%	3%	2%
投資状況	投資者	31%	21%	24%	20%	16%	15%	17%	12%	9%	10%	7%	8%	7%	5%	4%
	非投資者	18%	15%	11%	9%	10%	10%	8%	6%	5%	4%	4%	3%	3%	3%	2%

当資料は意識調査の内容を開示することを目的として野村アセットマネジメントが作成したものです。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しております。当資料に示された内容等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆しない保証するものではありません。また特定の銘柄の推奨や売買等を示唆するものではありません。

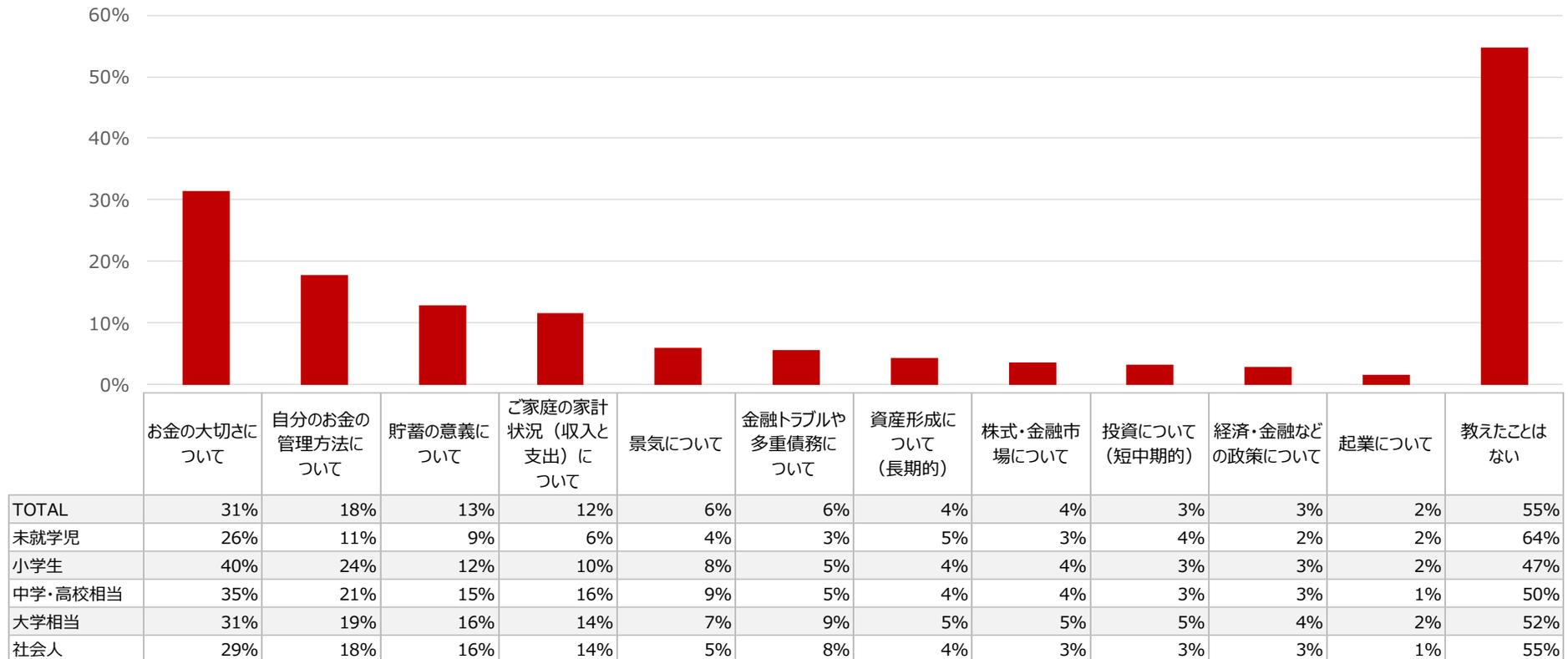
VI 家庭での金融教育

家庭での金融教育の内容

- 子供・孫がいる家庭において、実際に行われた金融教育の内容は、「お金の大切さについて」が31%と最も高く、「自分のお金の管理方法について」が18%、「貯蓄の意義について」が13%と続く。一方で、「教えたことはない」が55%

教えた内容

Q) あなたのご家庭では、お子さまやお孫さまに金融やお金・経済について、教えた内容はございますか。(複数回答、子供・孫との同居者、n=3,526)



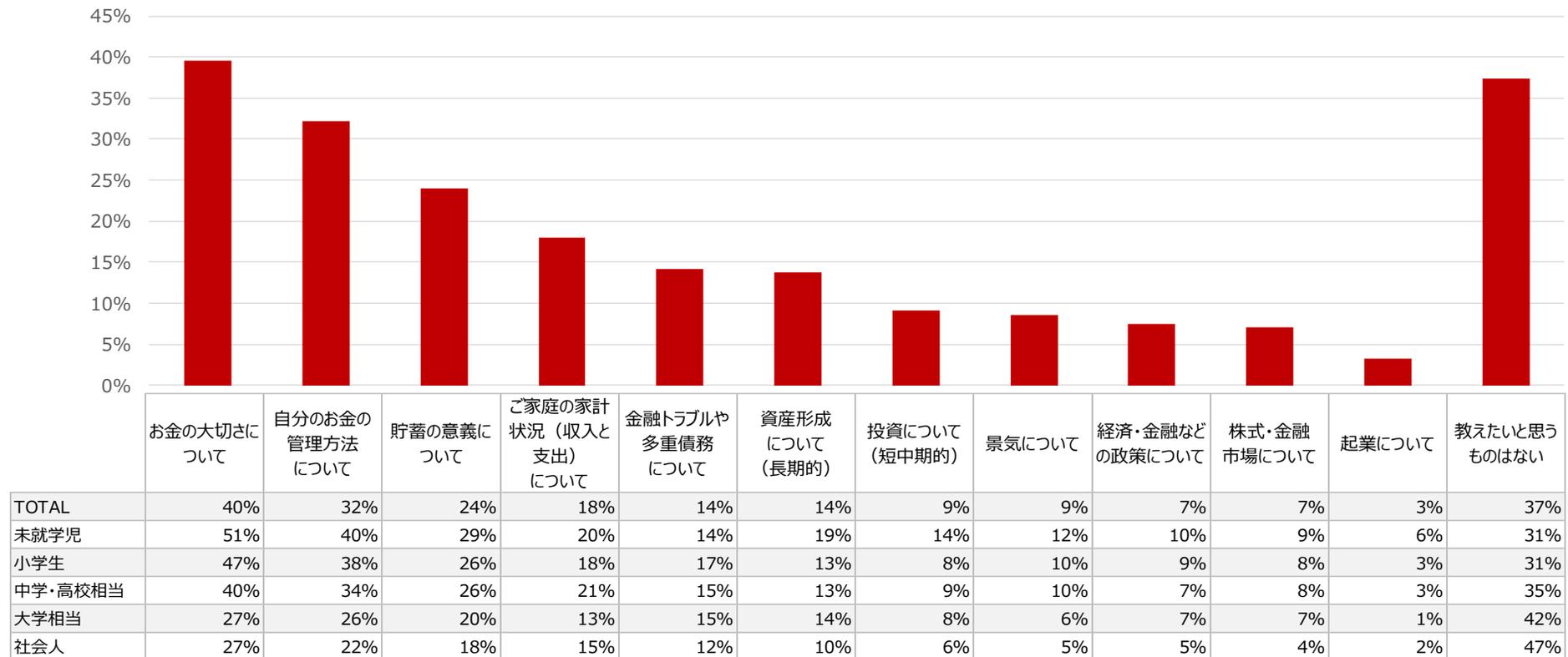
※クロス集計表の表側は現在の子供・孫の就学・就労区分。2人以上の子供と同居している場合は、未子学齢の子供に合わせて集計

家庭での金融教育で今後教えたい内容

- 家庭での金融教育において、今後教えたい内容は、「お金の大切さについて」が40%と最も高く、「自分のお金の管理方法について」が32%、「貯蓄の意義について」が24%と続く。一方で、「教えたいと思うものはない」が37%

教えたいと思う内容

Q) あなたのご家庭では、お子さまやお孫さまに金融やお金・経済について、今後教えたいと思う内容はございますか。(複数回答、子供・孫との同居者、n=3,526)



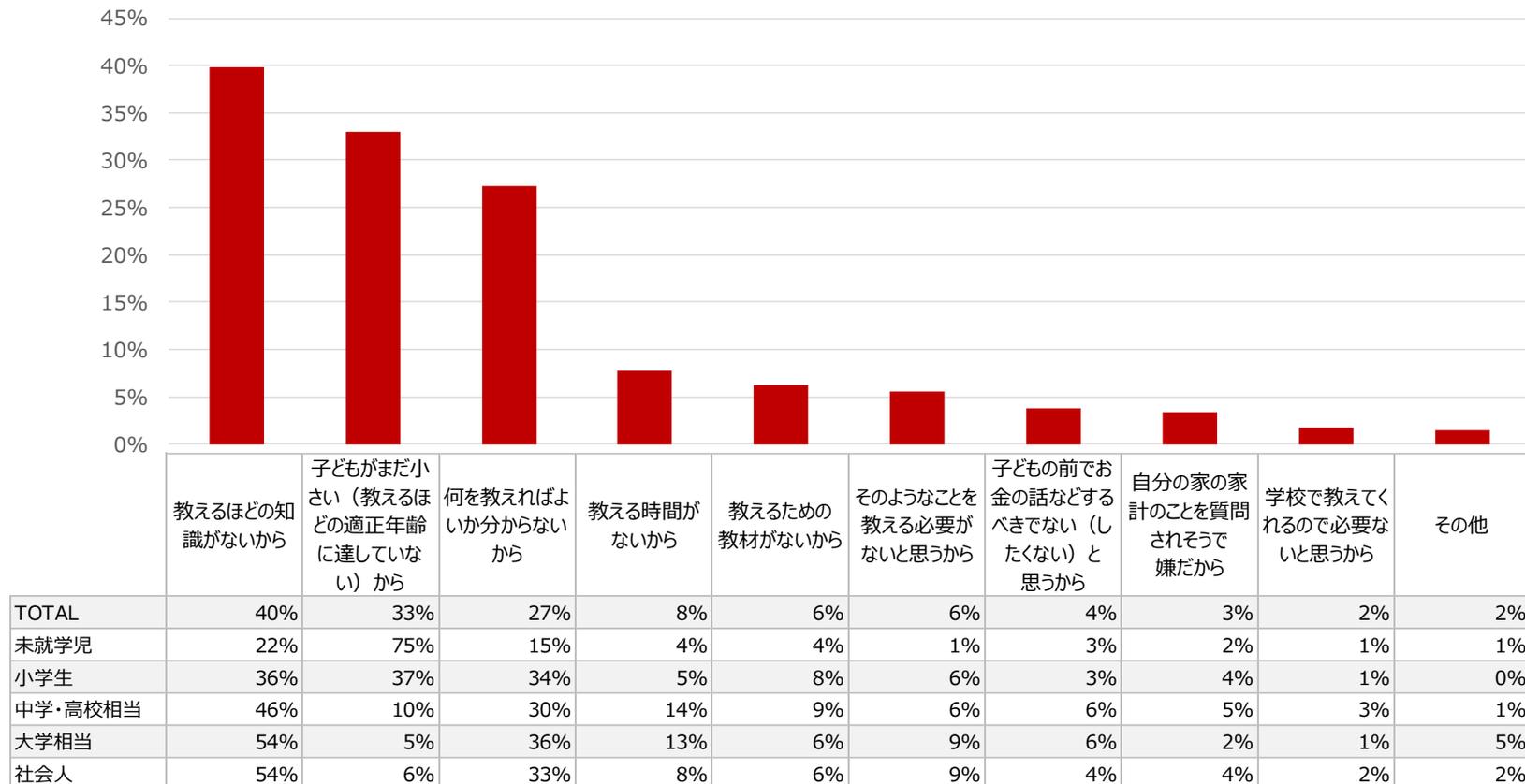
※クロス集計表の表側は現在の子供・孫の就学・就労区分。2人以上の子供と同居している場合は、未子学齢の子供に合わせて集計

家庭で金融教育を行わない理由

- 家庭で金融教育を行ったことがない人にその理由を聞いたところ、「教えるほどの知識がないから」が40%と最も高く、「子どもがまだ小さいから」が33%、「何を教えればよいか分からないから」が27%と続く

教えたことがない理由

Q) お子さまやお孫さまに金融やお金、経済について教えたことがないのは、なぜですか。(複数回答、子供・孫に金融・経済について教えたことがない者、n=1,929)



※クロス集計表の表側は現在の子供・孫の就学・就労区分。2人以上の子供と同居している場合は、末子学齢の子供に合わせて集計

調査概要

- **調査手法**：インターネット調査
- **調査対象**：20～69歳・男女個人
 - 関連業種の従事者は除外（金融業界、市場調査、マスコミ、広告代理店）
- **有効回収数**：10,664サンプル（回収ベース）
 - エリア×性別×年代の母集団準拠で回収
- **調査地域**：全国
- **調査時期**：2023年3月7日(火)～2023年3月10日(金)
- **ウエイトバック**：無
 - 国勢調査による推計値を使用し、その性年代構成比に近い構成になるように回収できた為
- **金融リテラシーテストについて**
 - 下記7つの設問より正答率、正答数を算出
 - (Q1) 金利：100万円を年率2%の利息がつく預金口座に預け入れたとお考え下さい。
それ以外、この口座への入金や出金はなかった場合、1年後、口座の残高はいくらになっていると思われますか
 - (Q2) 複利：また5年後には(Q1)の口座の残高はいくらになっていると思われますか
 - (Q3) インフレの定義：高インフレの時には、生活に使うものやサービスの値段全般が急速に上昇する
 - (Q4) リスク・リターンの認識：平均以上の高いリターンのある投資には、平均以上の高いリスクがあるものだ
 - (Q5) 分散投資：1社の株を買うことは、通常、株式投資信託を買うよりも安全な投資である
 - (Q6) 債券価格：金利が上がったら、通常、債券価格も上がる
 - (Q7) 住宅ローン：金利が上がっていくときに、資金の運用は固定金利、借入れは変動金利にする

(注) 下記資料より野村アセットマネジメント作成

・金融広報中央委員会（事務局・日本銀行情報サービス局内）「金融リテラシー調査（2022年）」

(https://www.shiruporuto.jp/public/document/container/literacy_chosa/2022/)

・OECD/INFE 2020 International Survey of Adult Financial Literacy

(<https://www.oecd.org/financial/education/oecd-infe-2020-international-survey-of-adult-financial-literacy.pdf>)

※本資料において、各数値は小数点以下第1位を四捨五入した整数で表示



野村アセットマネジメント
資産運用研究所